

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の
被ばく線量の評価状況について

2022年3月30日

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

当社は、福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の被ばく線量について、「外部被ばく線量」、「内部被ばく線量」に分けて評価し、厚生労働省に定期的に報告しています。

本日、2022年2月末までの被ばく線量評価値について、厚生労働省へ報告しましたのでお知らせします。

2月に放射線業務に従事した作業者の被ばく線量評価

- ・外部被ばく線量の最大値：13.68 mSv/月
- ・内部被ばく線量：有意な値は確認されておりません

以 上

<添付資料>

- ・被ばく線量の分布等について

被ばく線量の分布等について

1. 外部被ばくによる実効線量

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の過去3ヶ月の外部被ばく線量分布（各月別の全入域者数）を表1に示す。

表1 外部被ばく線量

区分(mSv)	R3.12月			R4.1月			R4.2月		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	0	0	0	1	1	0	9	9
5超え～10以下	0	27	27	0	44	44	0	45	45
1超え～5以下	34	524	558	17	630	647	20	730	750
1以下	1001	5284	6285	942	5169	6111	877	5081	5958
計	1035	5835	6870	959	5844	6803	897	5865	6762
最大(mSv)	3.50	8.43	8.43	3.31	10.28	10.28	4.43	13.68	13.68
平均(mSv)	0.12	0.36	0.32	0.10	0.41	0.37	0.11	0.47	0.42

A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

2. 外部被ばく線量と内部被ばく線量の合算値（実効線量）

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の令和3年4月1日を始期とする5年間の累積線量分布の1月末（R3.4～R4.1）と2月末（R3.4～R4.2）を表2に、年度の累積線量分布の1月末（R3.4～R4.1）と2月末（R3.4～R4.2）を表3に示す。

表2 5年累積線量

区分(mSv)	R3.4～R4.1月 (2021.4～2022.1)			R3.4～R4.2月 (2021.4～2022.2)			増減		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	3	509	512	5	646	651	2	137	139
5超え～10以下	49	850	899	57	944	1001	8	94	102
1超え～5以下	179	2161	2340	187	2237	2424	8	76	84
1以下	1109	4768	5877	1097	4747	5844	-12	-21	-33
計	1340	8288	9628	1346	8574	9920	6	286	292
最大(mSv)	10.68	17.08	17.08	11.60	17.26	17.26	-	-	-
平均(mSv)	0.69	2.30	2.08	0.76	2.55	2.30	-	-	-

A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

H23.10月以降、有意な内部取り込みは認められていない。

表3 年度累積線量

区分(mSv)	R3.4～R4.1月			R3.4～R4.2月			増減		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	3	509	512	5	646	651	2	137	139
5超え～10以下	49	850	899	57	944	1001	8	94	102
1超え～5以下	179	2161	2340	187	2237	2424	8	76	84
1以下	1109	4768	5877	1097	4747	5844	-12	-21	-33
計	1340	8288	9628	1346	8574	9920	6	286	292
最大(mSv)	10.68	17.08	17.08	11.60	17.26	17.26	-	-	-
平均(mSv)	0.69	2.30	2.08	0.76	2.55	2.30	-	-	-

A P D 値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業員）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

3. 特定高線量作業従事者の外部被ばく線量と内部被ばく線量の合算値（実効線量）
 特定高線量作業従事者 1 の累積線量分布を表4に示す。

表4 累積線量（特定高線量作業従事者）

区分(mSv)	H23.3月～H27.9月
100超え	1
75超え～100以下	191
50超え～75以下	233
20超え～50以下	267
10超え～20以下	186
5超え～10以下	129
1超え～5以下	145
1以下	51
計	1203
最大(mSv)	102.69
平均(mSv)	36.49

（H27.10月より特定高線量作業従事者としての届出は実施していないため、H27.9月までの表として記載）

1 特定高線量作業従事者

電離放射線障害防止規則第7条の緊急被ばく限度（100mSv）が適用されるとされている作業に従事する者。具体的には、発電所に属する原子炉施設並びに蒸気タービン及びその附属設備又はその周辺の区域であって、その線量が1時間につき0.1mSvを超えるおそれのある場所において、原子炉施設若しくは使用済燃料貯蔵槽を冷却する設備の機能を維持するための作業を行うとき又は原子炉施設の故障、破損等により多量の放射性物質の放出のおそれのある場合に、これを抑制若しくは防止するための機能を維持するための作業に従事する者を指す。

なお、これまでの特定高線量作業従事者については東電社員のみが対象者である。

- 特定高線量作業従事者の人数は、H23.3月～H27.9月の間で、過去に1度でも特定高線量作業従事者に届出したことのある者である。
- A P D 値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業員）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。
- H23.3月～H27.9月の累計の最大値（100超え）は、H25.7月に実施したH23.3月の内部被ばく線量を見直したことに伴うものである。

4. 等価線量

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の過去3ヶ月の等価線量（皮膚）分布を表5に、等価線量（水晶体）分布を表6に示す。

表5 皮膚

区分(mSv)	R3.12月			R4.1月			R4.2月		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
500超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
300超え～500以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
250超え～300以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
200超え～250以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
150超え～200以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100超え～150以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	3	3	0	11	11	0	11	11
5超え～10以下	0	38	38	0	66	66	0	47	47
1超え～5以下	35	608	643	17	717	734	20	782	802
1以下	1000	5186	6186	942	5050	5992	877	5025	5902
計	1035	5835	6870	959	5844	6803	897	5865	6762
最大(mSv)	4.42	15.40	15.40	3.31	18.98	18.98	4.43	13.68	13.68
平均(mSv)	0.13	0.42	0.38	0.11	0.49	0.44	0.11	0.50	0.45

A P D 値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業員）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、皮膚の等価線量限度は500mSv/年（緊急被ばく限度1Sv）となっている。

皮膚の等価線量は、70μm線量当量で評価しており、胸部または腹部の他に手などの末端部の測定を行った場合は、その最大値としている。

表6 眼の水晶体

区分(mSv)	R3.12月			R4.1月			R4.2月		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
150超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100超え～150以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	0	0	0	2	2	0	10	10
5超え～10以下	0	30	30	0	56	56	0	46	46
1超え～5以下	34	531	565	17	636	653	20	782	802
1以下	1001	5274	6275	942	5150	6092	877	5027	5904
計	1035	5835	6870	959	5844	6803	897	5865	6762
最大(mSv)	3.50	8.80	8.80	3.31	11.90	11.90	4.43	13.68	13.68
平均(mSv)	0.13	0.36	0.33	0.10	0.43	0.38	0.11	0.50	0.45

A P D 値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業員）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、眼の水晶体の等価線量限度は50mSv/年かつ、

100mSv/5年（緊急被ばく限度300mSv）となっている。なお、令和3年4月1日以前の眼の水晶体の等価線量限度は150mSv/年（緊急被ばく限度300mSv）である。

眼の水晶体の等価線量は、中性子線の1cm線量当量、X線およびγ線の3mm線量当量とする。

ただし、X線およびγ線については、放射線の種類およびエネルギーの種類等を考慮して適切と判断した場合は、1cmまたは70μm線量当量としている。（R3.4月より）

5. 等価線量の累積値

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の1月末（R3.4～R4.1）と2月末（R3.4～R4.2）の等価線量（皮膚）の年度累積分布の比較を表7に、1月末（R3.4～R4.1）と2月末（R3.4～R4.2）の等価線量（水晶体）の年度累積分布を表8に示す。

また、令和3年4月1日を始期とする5年間の累積線量分布の1月末（R3.4～R4.1）と2月末（R3.4～R4.2）を表9に示す。

表7 皮膚

区分(mSv)	R3.4～R4.1月			R3.4～R4.2月			増減		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
500超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
300超え～500以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
250超え～300以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
200超え～250以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
150超え～200以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100超え～150以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	2	16	18	2	26	28	0	10	10
10超え～20以下	5	642	647	8	783	791	3	141	144
5超え～10以下	55	882	937	60	935	995	5	53	58
1超え～5以下	178	2127	2305	188	2204	2392	10	77	87
1以下	1100	4621	5721	1088	4626	5714	-12	5	-7
計	1340	8288	9628	1346	8574	9920	6	286	292
最大(mSv)	39.21	33.90	39.21	39.21	36.51	39.21	-	-	-
平均(mSv)	0.80	2.60	2.35	0.87	2.86	2.59	-	-	-

A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、皮膚の等価線量限度は500mSv/年（緊急被ばく限度1Sv）となっている。

皮膚の等価線量は、70μm線量当量で評価しており、胸部または腹部の他に手などの末端部の測定を行った場合は、その最大値としている。

表8 眼の水晶体

区分(mSv)	R3.4～R4.1月			R3.4～R4.2月			増減		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
150超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100超え～150以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	3	537	540	5	673	678	2	136	138
5超え～10以下	51	864	915	59	959	1018	8	95	103
1超え～5以下	181	2137	2318	188	2239	2427	7	102	109
1以下	1105	4750	5855	1094	4703	5797	-11	-47	-58
計	1340	8288	9628	1346	8574	9920	6	286	292
最大(mSv)	10.51	17.15	17.15	11.43	17.24	17.24	-	-	-
平均(mSv)	0.70	2.34	2.11	0.77	2.60	2.36	-	-	-

A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、眼の水晶体の等価線量限度は50mSv/年かつ、100mSv/5年（緊急被ばく限度300mSv）となっている。

眼の水晶体の等価線量は、中性子線の1cm線量当量、X・線および線の3mm線量当量とする。

ただし、X・線および線については、放射線の種類およびエネルギーの種類等を考慮して適切と判断した場合は、1cmまたは70μm線量当量としている。

表9 眼の水晶体 5年累積線量

区分(mSv)	R3.4～R4.1月 (2021.4～2022.1)			R3.4～R4.2月 (2021.4～2022.2)			増減		
	東電 社員	協力 企業	計	東電 社員	協力 企業	計	東電 社員	協力 企業	計
100超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	3	537	540	5	673	678	2	136	138
5超え～10以下	51	864	915	59	959	1018	8	95	103
1超え～5以下	181	2137	2318	188	2239	2427	7	102	109
1以下	1105	4750	5855	1094	4703	5797	-11	-47	-58
計	1340	8288	9628	1346	8574	9920	6	286	292
最大(mSv)	10.51	17.15	17.15	11.43	17.24	17.24	-	-	-
平均(mSv)	0.70	2.34	2.11	0.77	2.60	2.36	-	-	-

A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、眼の水晶体の等価線量限度は5.0 mSv/年かつ、1.00 mSv/5年（緊急被ばく限度3.00 mSv）となっている。

眼の水晶体の等価線量は、中性子線の1cm線量当量、X線およびγ線の3mm線量当量とする。

ただし、X線およびγ線については、放射線の種類およびエネルギーの種類等を考慮して適切と判断した場合は、1cmまたは70μm線量当量としている。

以上